



みんなで家庭教育！

2月2日に可児市家庭教育学級リーダー研修会「ちょっと教えて！尾木ママの子育て相談会」を開催しました。市のいじめ防止専門委員会の特別顧問に就任し9年目となる尾木直樹先生をお招きし、家庭教育学級のリーダーが直接尾木ママに質問する Q&A の相談会を行いました。新型コロナウイルス感染症防止のため、オンラインでの開催となりましたが、尾木ママから子育てのヒントとエールをもらい、不安な気持ちが軽くなりました。With コロナの生活の中で、子育ての悩みや不安は多様なものになってきています。明日からの子育てに活かしていけたらいいですね。



ちょっと教えて！ 尾木ママの子育て相談会 Q&A (ダイジェスト版)



Q: 夫のしつけが厳しいことに悩んでいます。父親として子どもとよく遊んでくれるのですが、子どもへの接し方などどのように夫に伝えたらよいでしょうか？(7歳女子・4歳女子・2歳男子の母)

A: ・育ちの環境が全く違いますから、夫婦の子育ての路線が一致することは、少ないことだと思います。
・まず、お父さんのことを理解してあげることが大事ですね。お父さんの良いところを見て、よくやってくれてるわね。ありがとう。と言ってあげると、柔らかい気持ちになって、お子さんに対して優しい言い方になってくるから。また、子どもがこんなふうに喜んでいたりとか、お子さんのお父さんへの思いを通してあげることが大事だと思います。子どもの前では、お父さんのことを褒めましょう。
・お母さんたちはママ友とか学校の出入りとか、いろいろなところで情報をいっぱい仕入れるけれど、夫の場合はそういう情報から置き去りにされているんですよ。そんな中、子どもに関わってくれてるだけですからありがたいことですよ。

Q: 興味を持ち学ぶことが大好きなので、勉強を見てあげていますが、なかなか理解してくれずイライラしてしまいます。子どもの勉強はどの程度関わればいいのでしょうか？(6歳女子・4歳女子の母)

A: ・家庭での勉強は、学校の学習をサポートする程度で、子どもが「教えて」と言ったことを一緒に考えるような姿勢でよいと思います。
・それよりも入学までに、学校に出掛けるまでの一連の準備を自分でこなせるといった、身の回りのことを自立してやっていける力をつけてあげてください。また、友だちと意見がぶつかっても、トラブルを起こさずに解決できる力をつけてあげてほしいですね。
・自分のことを過干渉と思っている親が56%いるという調査もあります。子どもが意欲に満ちて探求的にやっている時や、興味関心があることを満足させる前に、親が先々のことを指示したり、心配したりして介入することで、子どもの成長を妨げてしまいます。
・子どもの自己決定を大事にする中で自立心が育ち、自分で決めたことは責任をもってやり切るという自己責任感が強くなります。なるべく子どもには自分で決めさせて、親はサポートして応援するという姿勢を大切にするとよいですね。

Q: コロナ禍で学校が休校になり、外との関わりや人との接触が減ったことで、体調が悪くなったり、外に出られなくなってしまった子たちがいると耳にします。親として、また周りにいる大人としてどう接したらよいでしょうか？(14歳女子の母)

A: ・国の調査によると、子どもたちのストレスは休校中の4、5月から大体7割以上の結果をキープしているんです。外へも出られない、学校へも行けない、家の中では何かトラブルが起きてしまう。逆に、家族が親密になれて絆が深まったという家庭ももちろんあるんですよ。でも絶対的な数で見ると、圧倒的に子どもたちのストレスが溜まってしまっているということです。
・子どもたちにどんなふうにしてほしいかを聞いてみると、状況を説明してほしいって言うんですよ。今はコロナだからしょうがないという言い方ではなく、これはこうなんだよって分かるようにしてほしいってことです。学校生活、家庭生活が一変して、これまでの日常が全部なくなったわけですよ。しっかり丁寧に説明すること、そして、「そりゃしんどいよね」って相づちを打ちながら共感的に子どもの声を聞くことを大切にしてほしいの。自分の辛さを聞いてもらえたら、心がほっとして、元気が湧いてきますから。
・学校へ行こうと外へ出ると調子が悪くなるとか、これはある意味、拒否反応なんですよ。急速に子どもたちに襲ってくるんです。自分たちが学校の主役ではなくなっているということがものすごくしんどい。授業の詰め込みや、学校行事などもなくなって。だから、子どもの声や意見を聞きながら、子どもも参加でやってくだされば、絶対にいいものができると思いますよ。そうなったらいいなと思います。

Q: 公立の小学校以外の学びの場が今の日本にはすごく少ないので、これからの時代もっといろいろな形の学びの場を作ってほしいと思います。多様な生き方を認める時代に合わせた学校は増えていくのでしょうか？(7歳男子・4歳男子の母)

A: ・平成28年12月に国会で教育機会確保法という法律が成立しました。2つのことが言われていますが、1つ目は、学校を休むこともありということです。2つ目は、学校以外の教育機会を確保しようということです。公立のフリースクールの様な学校が設置されるような時代に入ってきて、国も県も動きの流れができてきています。
・令和元年度小中学校で不登校の子は181,272人(文科省)とい、大変なニーズがあります。子どもの学びたい気持ちを多様な学びの形にしていってほしいと思います。
・オンライン学習の素晴らしい取り組みをやっている自治体、個別に面倒を見てくれる学習塾、サドベリースクール、ホームエデュケーション、イエナプランスクールというものも出てきました。新しいタイプの学校が次々と誕生してきています。そういう情報を得るとすごく元気が出ますよ。

Q: インターネットの動画投稿サイトが大好きな子どもたち。コロナ禍で自宅にいる時間が増えたこともあり、一度見始めると長時間見続けています。時間を守って楽しく見るにはどうすればよいのでしょうか？(6歳女子・2歳女子の母)

A: ・世界中の子どもたちがコロナで休校になり、どんどんスマホにはまっていたんですね。子どもたちがスマホをやめられないのは、脳の働きなんです。脳内でドーパミンが放出され、快感や興奮が得られることでスマホ依存となり、理性を司っている前頭前野の機能が低下し、思考力そのものが低下していきます。脳が破壊されるという表現をされる方もいるくらいですよ。また、近くで画面をみることで、近視の心配もあります。1、2歳からスマホを持たせると、片目だけで画面を見ようとするため、内斜視になってしまいます。
・国の調査でも、コロナで圧倒的にスマホをみる時間が増えたともあります。僕のスマホの7つのルールというものがありますので、ぜひ参考してみてください。

令和2年度の家庭教育学級が終了しました!

市内44の乳幼児学級、家庭教育学級が閉講式を迎え、全ての活動を終わりました。新型コロナウイルス感染症防止のため、今年度は秋からの学級開講となりましたが、活動に制約がある中でも、のべ6800人の保護者が参加し、子育てについて学び、悩みを共有しながら、親同士のつながりを深めることができました。



親子でサツマイモ掘り



絵本の読み聞かせ



アングーマネジメント講座



しめ縄作り



先輩ママからの高校紹介



ヨガ

感染状況が厳しい時には、各家庭において親子のコミュニケーションを深められる「在宅型取組」を行った学級がたくさんあり、親子の絆をより強くするきっかけ作りに活かしていただけました。また、集まって交流する子育てサロンができない代わりに、通信を発行して、子育てに関する情報を学級生同士で共有する取組を行った学級もありました。

在宅型取組 『スキンシップすごろく』

～学級生の感想より～

家族で楽しくすごろくで遊べました。スキンシップすごろくは、笑顔広がるイベントがあって楽しめました。娘は、ハグをしたり、頭をなでられるととても嬉しそうにしている、とても癒される時間を過ごせました。



『わくわく通信』

学級生にアンケートをとりながら、通信を発行しました。習い事、ご飯メニューなど、知って得する子育て情報や、子育て川柳など、疲れた時に読んでホッとすることが盛りだくさんでした!



With コロナの生活も一年が経ちます。これまで通りの子育てができなくなる場面もある中、今年度は家庭教育学級を通して、人と触れ合うことのあたたかさ、当たり前だった日常のありがたさに気付く機会にもなりました。保護者の皆さんだけでなく、お子さんも制約のある生活の中で、一年間を過ごされました。ぜひ、ご自身の子育てとお子さんの成長を振り返って、親子で一緒に「一年間頑張ったね。」と声をかけ合ってくださいね。

家庭教育はすべての教育の出発点。子どもにとって安らぎのある楽しい居場所が「家庭」です。子どもが将来、社会へ巣立っていくために培うべき力と心を育てていくために、これからもお子さんと気持ちを共有することを大切にしながら、親として子育てを共にまなび、楽しんでいきましょう。

学級役員の皆さんに感謝!一年間お疲れさまでした!!

学級役員のみなさん、一年間ありがとうございました。厳しい状況の中で、「できることをやるだけ」をモットーに、感染防止対策を講じながら、学びある講座と学級運営に努めてくださいました。「ピンチはチャンス!今だからこそできることがある!」と前向きに考え、頑張ってくださいました役員の方々に感謝申し上げます。

☆一年間ありがとうございました。
 可見市役所 子育て支援課 親子まなび支援係 前田 加代子
 電話 : 62-1111 (内線 5545) FAX: 66-1005
 E-mail: kosodate@city.kani.lg.jp

